

医薬品製造業における環境経営の現状と課題

— 自動車製造業との比較をふまえて —

M031749 田中隆世司

1. 研究目的

本研究は、医薬品製造業における環境経営の現状と課題を他の業種と比較することにより把握・分析し、今後の医薬品製造業における環境経営に必要な取り組みについての課題抽出を行うことを目的とする。

2. 医薬品製造業と自動車製造業における環境経営の現状分析

2-1 分析方法

第7回環境経営度調査報告書のデータを用いて、環境先進業種と環境後進業種を抽出し、抽出された環境先進業種である自動車製造業と環境後進業種である軽工業、および医薬品製造業のデータからクラスター分析とMDSを用いて2次元に表すことにより、環境経営における医薬品製造業の現状を把握した。さらに環境先進業種との違いを把握するためにフィッシャーの直接法を用いて分析した。

2-2 結果

医薬品製造業は標準的、もしくは導入期の環境経営を行っている組織が多く、環境経営においては、標準よりやや劣っている業種であることが示された。また、環境先進業種である自動車製造業と医薬品製造業との環境経営の違いは環境マネジメントシステム（以下、EMS）にあることが解明された。

3. 医薬品製造業と自動車製造業における環境マネジメントシステム構造の現状分析

3-1 分析方法

医薬品製造業と自動車製造業のEMS構造の違いを独自で行ったアンケート調査から分析し、EMSの特性と医薬品製造業のEMS構造の問題点を抽出した。

3-2 結果

(1) EMSの特性

EMSと環境パフォーマンスの関係については、分析結果から相関関係にあることが示された。つまり良いEMS構造からは良い環境パフォーマンスが生まれことを意味している。

(2) 医薬品製造業の課題

医薬品製造業が今後取り組むべき課題としては、EMSの導入範囲の拡大、他のシステムとの整合性、トップマネジメントの役割の明確化、経営層による見直し（ACTION）機能の強化、および廃棄物削減への取り組みが挙げられる。

4. 結論

4-1 発見事項の整理

(1) ISO14001は有効なマネジメント手法なのか。

ISO14001とは、直接的に企業の環境行動を要求するものではないが、認証取得のみでは環境パフォーマンスの改善は期待できないが、ISO14001は組織に対しEMS構造の継続的改善が要求されるため、継続的改善によりEMS構造が整えば、おのずと環境に配慮した行動がとられることが期待できる環境経営に有効なマネジメント手法であるといえる。

(2) 環境先進業種の環境経営と医薬品製造業では何が違うのか。

医薬品製造業のEMSは未だ十分な機能を果たしておらず、未だEMS構築の過渡期である。また、産業廃棄物排出量を分析した結果、廃棄後の再生利用や廃棄抑制などのゼロエミッションへの取組が遅れている結果が示された。

(3) 医薬品製造業の環境経営が遅れている原因は何か。

医薬品製造業においてGMPやISO9001といったQMSとEMSは個別のシステムとして運用されているため、環境経営に遅れが生じている可能性がある。

4-2 医薬品製造業における環境経営の課題

医薬品製造業は再度、医薬品は人間の生命に関わる重要な製品であるという原点に立ち返り、さらに環境経営は社会的責任を果たすのみではなく、今後、企業が持続可能な発展をしていく上で不可欠な要素であることを再認識し、構築したEMSの運営体制を見直し、GMPとEMSを統合したマネジメントシステムとして運用する必要がある。

4-3 将来研究への課題

本研究の結果は、統計的な分析により導き出されたものであるため、そこから発見された事項には限界があり曖昧な点が多く、医薬品製造業で行うべき環境経営のモデリングまで至っていない。また、ケース・スタディを行っていないため、解釈の結果は実際と異なっている可能性があり、本研究で発見された事項を一般化するにはかなり無理がある。本研究で明らかになった事項に関してのケース・スタディを行い、統計的裏づけと合わせ2方向からのアプローチを行い再度、検討する必要がある。